

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	空き家対策事業			事業番号	16-104
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	都市部	重田 浩光	建築住宅課	藤堂 勝彦	

計 画 (Plan)

総合計画体系	安心力	まちづくり目標	2	地域で助け合う安全で安心なまち	
		基本政策	5	暮らしの安心がひろがるまちづくり	
		施策展開の方向	1	暮らしの安全を守るまちをつくる	
		施策	16	地域とともに取り組む防犯対策の推進	
予算事業名					
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	できる規定がある
事業開始年度	開始年度	平成28年度	～	終了年度	
関連法令等	空家等対策の推進に関する特別措置法				
国・県の計画等				計画期間	
関連個別計画				計画期間	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	地域における人口減少や既存住宅の老朽化等に伴い、適正に管理されていない空き家等が増加し、周辺の生活環境に悪影響を及ぼすものと予想される。 このような社会背景を踏まえ、平成26年に「空家等対策の推進に関する特別措置法」が制定され、自治体に地域における空き家等に関する施策を総合的かつ計画的に推進することが求められている。				
目的 (何をどうしたいのか)	適切な管理が行われていない空き家等が、防災、衛生等の地域住民の生活環境に悪影響を及ぼすことから、空き家等の適切な管理と活用の促進を図る。				
主な対象 (誰・何を対象に)	市民、空き家等の所有者				
事業内容 (手段、手法など)	・空き家等の適切な管理に関する周知啓発や空き家等の実態把握、データベースの整備を行います。 ・空き家等対策方針案を作成するとともに、空き家等の活用に関する情報提供を行います。				
事業行程	項目	年度			
		28年度	29年度		
	実態把握	実態調査	状況把握		
	対策方針案の作成	検討	作成		
活用情報の提供	検討	運用			
目 標	【指標名】	【現状】	年度		
			28年度	29年度	
	空き家等の実態把握・対策方針案の作成	実態把握	対策方針案の作成		



事業実施 (Do)へ

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)			
実施方法 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> すべて直接実施 <input type="radio"/> 左記以外		
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容
実施結果	項目	年度	
		28年度	29年度
	実態把握	実態調査	
	対策方針案の作成	検討	
	活用情報の提供	検討	
実施した取組の内容	市内全域の空き家の実態調査を行い、空き家の適正管理について広報、ホームページを通じて市民に周知を図った。		
目標の達成状況	【指標名】	【現状】	年度
			28年度 29年度
	空き家等の実態把握・対策方針案の作成		実態把握

年度		28年度 実績				29年度 実績			
事業費合計 (a)		0	千円						千円
内訳	国県支出金 ①	0	千円						千円
	地方債 ②	0	千円						千円
	その他特財 ③	0	千円						千円
	一般財源 (a)-①-②-③	0	千円					0	千円
国県支出金の内容									
コスト	その他特財の内容	受益者負担	<input type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		前回の改定時期				
		その他							
人件費	正規職員	0.23	人	1,990	千円		人		千円
	その他の職員	0	人	0	千円		人		千円
	人件費合計 (b)	0.23	人	1,990	千円		人		千円
トータルコスト (a)+(b)		1,990	千円						
単位当たりコスト	対象数	定義	市民			単位			
		対象数	101,635	人					
	総事業費／対象数	20	円						

評価 (Check)へ

評 価 (Check)

<p>進捗状況 〔選択・記入〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C) 	<p align="center">A</p>	<p>左記判断理由</p>	<p>空き家の実態調査を実施し、その調査結果をもとに、管理不全な空き家の所有者に対し、啓発を兼ねたアンケート調査を実施した。また、広報紙、ホームページを通じて、空き家の適正な管理について、普及啓発を行った。</p>
<p>実施水準 〔選択・記入〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input checked="" type="radio"/> 一律に比較できない事業 	<p align="center">—</p>	<p>他都市の事業内容等</p>	<p>地域が市街地か過疎地かにより、空き家の存在する背景が異なるため、他都市との一律な比較は出来ない。</p>
<p>有効性 〔選択・記入〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C) 	<p align="center">A</p>	<p>左記判断理由</p>	<p>実態を把握したことにより、土地、家屋の所有者に適切な管理等、具体的な対策が有効となる。</p>
<p>効率性 〔選択・記入〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C) 	<p align="center">A</p>	<p>左記判断理由</p>	<p>実態調査の情報を分析することにより、今後問題となりそうな空き家の絞り込みや必要となる施策の検討が効率的にできるようになった。</p>

 取組の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)

<p>所属長による今後の方向性の判断</p>	<p>方向性 〔選択〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続 	<p>事業推進上の課題</p>	<p>所有者等が自らの責任により、問題に対処することが必要であり、所有者等に空き家の適正な管理を意識付ける取組が必要である。</p>
<p>次年度取組方針</p>		<p>空き家の状況を継続的に把握するとともに、対策方針案や活用情報の提供について検討を進める。</p>		
<p>所管部長による総評</p>		<p>管理不全な空き家の増加を抑制するため、所有者等へ空き家の適正な管理を行うよう普及啓発を行うとともに、関係部署が空き家に関する情報を共有し、連携して空き家対策を進める必要である。</p>		